

令和元年 6 月 27 日

ウレタンフォーム工業会専務理事	平松 利夫 様
西川(株)東京オフィス品質管理室室長	志村 洋二 様
㈱ブリヂストン加工品新事業開発室課長代理	中西 貴浩 様 (欠席)
㈱ロマンス小杉マーケティング部MD	引地 信之 様 (京都TV会議参加)
西川(株)大阪商品グループ第2部第2課	山田 善久 様 (京都TV会議参加)
(一財) ボーケン東京生活用品試験センター	末永 尚弘 様
*オブザーバー	
西川(株)品質管理部部長	藤田 貢 様
㈱ロマンス小杉商品部次長	井上 様 (京都TV会議参加)
(一社) 日本寝具寝装品協会専務理事	奥谷 孝良 事務局 池田 努

JBA: (一社) 日本寝具寝装品協会業種別委員会 ウレタン・敷部会
部会長 坂井 史治

JBA 第 6 期 : 第 1 回ウレタン・敷部会 議事録

1. 開催日時 令和元年 6 月 14 日 (金) 午前 10 時 30 分 ~ 午後 12 時 00 分
2. 開催場所 東京 : (一社) 日本寝具寝装品協会 日本橋小舟町事務所 ☎03-6661-0213
関西 : 西川(株) 京都オフィス TV会議室 ☎075-351-1828

3. 議 題

- (1) JBA ラベル表示内容について
(体圧分散図について)

- (意見) 試験方法により違いが大きく出るため絶対値の測定がしにくい。
- (回答) 粗悪品を除外することが目的であり、簡略な評価判定で良と考えている。
- (意見) 品質評価者を製造業者又は表示者と定めているが、自社に優位な評価が可能なので、第三者機関に限定すべき。
- (回答) 実質的に試験をおこなうのはウレタン製造企業であり、国内では上場企業の 5 社に限られている状況から、危惧される事案の発生は低いものとする。
- (意見) 人体による計測では差が出やすいので、褥瘡用の計測器を用いてはどうか。
- (回答) 今後の検討課題とする。
- (意見) 体圧分散の評価が商品選択の主眼となる傾向が強いことから、寝姿勢と切り離しては正しい評価方法とは思えない。
- (回答) 寝姿勢を評価することはとても難しい。現状では体圧分散評価とは切り離して考えたい。

【事務局からの提案】

性能表示を下記の性能表示項目にしてはどうか。

1. 用途の分類：従来の規程案通り、ベッド用とフロア用に分ける。
2. 寝返り性：「反発性」と「硬さ」を併せて評価する。
(意見)・反発性と硬さに相関性はあるのか。
・反発性の評価のみで良いのではないか。
・「硬さ反発性」表現の方が良い。
3. 耐久性：「復元率」と「へたりにくさ」を併せて評価する。
*特に意見なし
4. 快適性：「保温性」と「透湿性」を併せて評価する。
(意見)・透湿性の評価基準＝スリットの有無や膜の有無となるのか。
・薄い×スリット有＝厚い×スリット無となるが、これをどう評価するのか
・「快適性」表現には疑問。透湿性だけの方が良い。
・「あくまで目安です。」の表現を加えた方が良い。
・「保温性」評価を加えたのは、床使用が多いことから寒い時期での使用を考慮して表示している。
5. 耐圧分散性： 図での表示を止める。
・「体圧分散図」をQRコードから確認可能な仕様を検討する。

*表現方法(数字 or ★☆)や複合評価の基準値設定などの課題はあるが、概ね事務局提案の評価項目で進めることでした承された。

- (2) JBAラベル価格等について
・出来るだけコスト負担にならないように、20円/1枚とする予定。
- (3) JBAラベル今後のスケジュール(予定)について
・7月頃から申請受付が出来るようにしていきたい。
- (4) 第6期ウレタン敷き部会の検討課題について
・圧縮梱包等の課題について検討を進めていく予定。

以上

上記の「第1回ウレタン敷き部会」での検討内容を受け、事務局として修正案をまとめた。

開催日時： 令和元年7月1日（月）13：30～15：00

出席者： 坂井部会長（ボーケン品質評価機構）

奥谷専務理事、池田（JBA 事務局）

【2. 寝返り性】

評価方法： 「反発性」と「硬さ（製品評価）」を併せて評価する。

評価基準：

反発性 硬さ		〈低反発タイプ〉 反発弾性：15%未満	〈一般タイプ〉 15%～50%未満	〈高弾性タイプ〉 50%以上
やわらかめ		1	2	2
ふつう		2	2	3
か た め	ややかため	2	3	3
	かため	3	3	4
	超かため	3	4	4

【3. 耐久性】

評価方法： 「へたりにくさ」を評価基準とする。

* 「復元率」と「へたりにくさ」を併せた評価を候補案としていたが、「復元率」は家表法で別表記されていることと JIS6400-4 試験による「硬さ低下率」で評価できるものと判断した。

試験方法： JISK6400-4（軟質発泡材料—物理特性の求め方—第4部：圧縮残留ひずみ及び繰返し圧縮残留ひずみ）の6.1「A法（定荷重法）」により、6.1.7「計算」で得られる硬さ低下率による。ただし、試験片の厚さは製品厚さとする。

へたりにくさの区分

硬さ低下率	39%以上	39%未満 32%以上	32%未満 22%以上	22%未満
表示	1	2	3	4

注1：試験評価点数（n）は1点以上（n=1以上）とする。

【4. 快適性】

評価方法： 「保温性」と「透湿性」を併せて評価する。

「透湿性」はスリットの有無で評価する。

熱抵抗値 厚さ	1.0 未満 40 mm 未満	1.0 以上 1.5 未満 40 mm 以上 60 mm 未満	1.5 以上 2.0 未満 60 mm 以上 80 mm 未満	2.0 以上 80 mm 以上
スリット有	2	3	3	4
スリット無	1	2	3	3

【5. 体圧分散図】

表示方法：

図での表示は行わない。

QRコードから、ラベル付帯の各商品の体圧分散図を見ることが出来るようにする。

ただし、QRコードを載せない選択肢も可。

(QRコードからの表示形態)

①単独表示

②従来品(各社選定の標準品)との比較表示

(課題)

「寝返り性」及び「快適性」表現については、優良誤認と判断される可能性が危惧されるので、消費者庁に確認しておく必要がある。

以上